

茅ヶ崎地区まちづくり協議会

つぎいつ時のために

防災リーダーフォローアップ研修

茅ヶ崎地区防災リーダーフォローアップ研修を7月9日(土)実施いたしました。
今回の研修は新型コロナウイルス感染症拡大前から企画していた地区内の防災倉庫の見学がようやく実施できたものです。



パークタウン茅ヶ崎自治会防災倉庫



見学後意見交換

茅ヶ崎地区コミュニティセンターに集合し、3班に分かれて本町第四自治会、パークタウン茅ヶ崎自治会、元町第二自治会の3自治会の防災倉庫を見学させていただきました。
見学後は班毎に見学した感想や今後の防災倉庫について意見交換。特に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い防災訓練や防災備品を使用するイベントが中止になっていて実際に使えるかどうかの確認が出来ていない等の課題も上がりました。参加いただいた防災リーダーそれぞれ気づきがあったと思いますので、自身の自主防災組織で展開していただくと共に茅ヶ崎地区としても連携を取った防災活動の必要性を再確認する機会となりました。この度ご協力いただきました。3自治会にあらためて感謝申し上げます。

小和田地区まちづくり協議会

新一年生への交通安全教室 2年目突入!!



にこやかな集合写真です(小和田小学校庭にて)



右・左・もう一度右しっかりと確認しながら渡ろうね

交通安全部会では安全対策課とタイアップし、昨年より新一年生への横断歩道の渡り方などの指導をスタートしました。
今年5月19日(木)に小和田小学校の校庭で校外委員、推進協、見守り隊、まち協等の18名が指導補助、見守りとして参加しました。市職員による標識の説明、横断歩道の渡り方や、路駐車両の回避方法などの具体的な説明を受けた

当日はとても暑く、まだまだ幼い新一年生には集中し続けるのが難しい状況で、集合や待機、水筒の管理など先生方の日頃のご苦労も垣間見つつ、参加した地域の、特におじさまおばさまは、児童の笑顔にパワーをもらいました。今後子どもたちと程よい距離感を保ちつつ、「自分の身は自分で守る」意識を育むことのできる見守りをしていきます。

松浪地区まちづくり協議会

地域と市で課題を共有「松浪地区会議」



松浪地区会議

松浪地区では、9月10日(土)に松浪コミュニティセンターで「松浪地区会議」を開きました。この会議はコロナ禍に対応し地域課題を深掘りしたモグラ型の市民集会で、佐藤市長をはじめとした市の方々と地域の方々が多数集まりました。4月から始まったごみ有料化の現状報告のあと、地域の皆様から寄せられた26件の意見の中からとりわけ多かった「生活環境」をテーマにし、①戸別収集②ごみ収集所設置基準③コンポスト設置について市の方々と説明を受け、活発な意見交換を行いました。この会議は、ごみ問題に関した地域の苦労や悩みなど課題を共有し、どうしたら松浪地区が住み良くなるか、市と一緒に考えていくきっかけになっています。

浜須賀地区まちづくり協議会

ある自治会長の長い一日「いのちのりレー」



空家になっても「見守ろう」

コロナ禍の春、「新聞が溜まっている」と新聞配達員からAさんへ通報が入り、Bさんを経由して自治会長にSOSが入った。
出先から自治会長はM宅に駆けつけ呼びかけるも返事なく110番通報する。新聞が8日分溜まり、隣人も集まった。包括支援センター、民生委員を呼び、戸や窓は壊せなかったが、一箇所無施錠を見つけた室内に入る。

高齢Mさんが倒れており、警察官が救急車を依頼。救急隊員は、手際よく救護。酸素吸入、応急措置後に搬送、自治会長は救急車に乗る。意識なくグッタリ、発見が遅れたら危険だった。
ひとり暮らしの生活状況を説明し、体力と機能回復のため入院。急性期を乗り越え二週間後に退院し、在宅生活に戻った。
日ごろ隣近所で注意を呼びかけていたこと、ひとつの大切な情報を見逃さないこと、関係者が集まり協力した事が実を結んだ。「自治会「活動見守り」への参加が、ひとつの「いのち」を救った。

茅ヶ崎南地区まちづくり協議会

第9回新春風揚げ大会を開催します!

サザンビーチがさきに面する茅ヶ崎南地区は、海の豊かさを守ろう(SDGs14)の取り組みに努めています。ようやく新型コロナウイルス第7波の猛威も落ち着き始め、日常の生活を取り戻しつつある中で、令和5年のお正月は恒例の風揚げ大会で一年のスタートを切る予定です。
迎えて第9回となるこの「新春風揚げ大会」は、箱根駅伝の応援に集まれる市民の方々に、茅ヶ崎海岸の美しさと豊かな海を保全することの大切さを感じていただくこと、ひとときを風揚げや羽根付きなど正月の行事で楽しんで頂く行事です。



新春風揚げ大会

もたちに配った風を空高く舞い上げ、令和5年が健康で一層良い年となることを祈願する風揚げ大会。皆様のおいでをお待ちしています。

松林地区まちづくり協議会

コロナ禍でも通えるサロンを



松林サロン

松林地区まちづくり協議会の福祉部会では、松林地区内で開催されている様々なサロンの実情を理解・把握する目的で「サロン担当者」の交流会を開催してきました。今まで3回実施した「交流会」で大変貴重な情報を得る事ができました。
福祉部会としても得られた情報を糧にしたサロン開催を目指してきましたが、コロナ感染が拡大し、開催を見送らざるを得ない状況が続いてきました。コロナ感染が一旦下火になった今年5月に福祉部会と
当日は、10名の参加があり、無事に第1回目を開催できました。参加者からは「楽しかった」、「久しぶりにおしゃべりできて嬉しかった」などの感想が寄せられました。
今後は隔月で開催する予定です。感染対策を行いながらサロン開催を継続していきます。

活動紹介

海岸地区まちぢから協議会

女性達の生活の知恵を活かした災害対応

近年の荒ぶる自然災害は、脆弱な所に大きなダメージをもたらす、既に行政の力を超え、地域住民の協力なしでは乗り越える事が出来ない現状となっております。

防災は、災害に対していかに命を守り、いかに暮らしを継続させるかの被害抑止から、さらには、自分や家族地域のより良い未来を考える事にもつながります。

女性は一般的に、男性より介護・子育て・地域の人の係わりが多く、地域の

繋がりや牽引者であり多様な立場からの視点を持っています。このような女性の力(特性)を防災に活かしたいと考え、海岸地区では、2022年8月に「女性防災会議」を立ち上げました。

特に避難所内では、多様なニーズを聞き取り、状況に細やかに気を配り、柔軟に判断して問題解決につなげる必要があります。そのような避難所における意志決定の場にも、人的ネットワークを活かして働く女性の力を活かして欲しいと男性達からも期待され、今後の「女性防災会議」の継続を応援していただいています。

海岸地区はこれからも「男女で異なる互いの視点を尊重し、補い合い」心地良いコミュニティの存続と防災・減災を目指していきま



災害時の要配慮者支援について考える

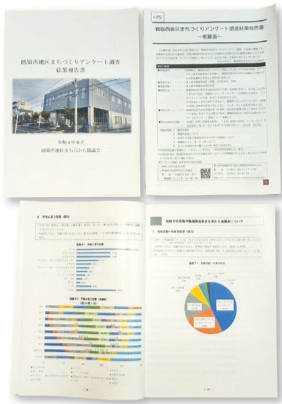
鶴嶺西地区まちぢから協議会

もっと住みやすくするためアンケートを行いました

アンケートを行いました

鶴嶺西地区では、昨年十一月より事業計画として、鶴嶺西地区に関する考えや地域の課題についてお聞きし、今後の協議会の基礎資料とするため、主に自治会加入世帯を対象にアンケート調査を実施することにしました。

この調査は、鶴嶺西地区にお住まいで自治会に加入している4,687世帯の皆さまに調査票を配布して(対象年齢16歳以上)自治会ごと



アンケート結果報告書

に取りまとめ回収、鶴嶺西コミュニティセンターへの持参による回収、インターネットでの回答、郵送による回収を行った。

自治会未加入者にも回答ができるよう、鶴嶺西コミュニティセンター、鶴嶺公民館に調査票を配架するとともに、インターネット回答も可能とした。

2月の1ヶ月間後回収を行い1,435世帯から回収、インターネット回答が190件、合計1,625件の回答があり(回収率:34.6%)でした。

調査結果報告書を作成するのにデータ集計担当6名以下役員で2ヶ月かけて完成しました。

今後報告書をもとに、鶴嶺西地区をもっと住みやすいまちにすべく、問題解決に向け取組んでいきます。

鶴嶺東地区まちぢから協議会

子どもの見守り活動



シンボルマーク

鶴嶺東まちぢから



見守り旗

鶴嶺東地区まちぢから協議会は、9自治会、学校関係、地区社協、民児協、推進協、体育振興会、ボラセン、コミセン、包括支援センター、公募委員が協力し、6つの部会を構成しています。部会には、防災減災部会、環境安全部会、

地域福祉部会、青少年育成部会、高齢者活性部会、広報部会があり、全部会共通事業として「子どもの見守り活動」に力を入れています。「子どもの見守り活動」は、「地域の子どもは地域で守る・育む、地域も子どもと共に育つ」を理念とし、令和3年度から始まり、同年10月には、茅ヶ崎市の認定コミュニティ特定事業として認められました。これにより助成金を得ることができ、主に見守り活動のツールとして見守り旗300本作成に役立てられました。黄色い可愛らしいデザインの旗は、子どもたちにも好評で、横断歩道などの見守りだけでなく、鶴嶺東地区の辻々で掲揚されています。将来的に、この見守り活動が鶴嶺東地区から茅ヶ崎市全体へ広がっていくことを願っています。

南湖地区まちぢから協議会

防災資機材の内容確認と運転訓練



車いす取扱い説明



発電機運転訓練

南湖地区まちぢから協議会ではコロナ禍で2年間中止しておりました合同防災訓練を、参加人数を大幅に縮小して9月10日(土)西浜小学校で実施しました。

訓練内容は、各自自治会に保管されている防災資機材の内容確認と取扱い訓練ということで、4ブース、4グループに分かれて(1)起震車と煙体験、(2)車いすの実施訓練、(3)テント付きトイレの設置訓練、(4)発電機の取扱い訓練を行いました。

車いすの訓練では茅ヶ崎市社協とポテトの会の協力をいただき、車いす15台を用意し、ポテトの会の運転注意事項他の説明をしていただいた後、2人一組となり障害物の対応等訓練を行いました。

また、テント付きトイレのブースでは設置から撤収までを行っていただきましたが割と簡単に設置できるものと、組み立てるだけでも難儀しているものなど良い比較ができました。

最後のブースは発電機を用意してもらい、ガソリン、混合油、ガスターボの燃料の違いによる取扱いを比較することが出来ました。

今後は各資機材の内容情報の交換を行い災害時により実務的な対応がスムーズに行えるようにしていきます。

湘南地区まちぢから協議会

手を上げて横断歩道を渡ろう



キャンペーンのぼり旗



手を上げて渡る姿

湘南地区まちぢから協議会では、令和3年度から、交通事故撲滅活動として、横断歩道の事故に着目し、安全向上の分析を行いました。湘南地区を通る鉄砲道、左富士通り、柳島通りにある多くの信号のない横断歩道の中から3カ所抽出し、歩行者に対しての車両の停車率を実験調査しました。令和4年3月5日土曜日の午後1時間の調査でありましたが、横断歩道の前に歩行者が立っても停車する車両は、61%で、歩道前で手を上げると、82%に変化しました。

信号機の無い横断歩道で歩行者が歩道を渡ろうとしても、一時停止をしない車両が半数に近く、問題が改めて認識できました。このことから、手を上げて横断歩道を渡ることを地域全体に広める活動を始めました。

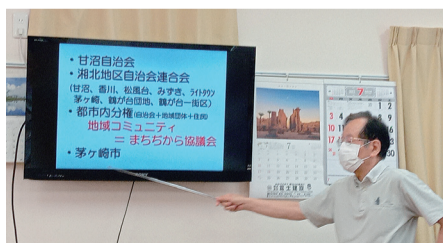
小学生が初登校の日に、見守りボランティアの方々とこのぼり旗を持って声掛けを行いました。今後も継続して、活動予定です。

湘北地区自治会連合会

地域コミュニティの取組について



令和4年甘沼自治会説明会



湘北地区を除き茅ヶ崎市13地区の内12地区に、まちぢから協議会が設立され活動を行っております。湘北地区としても平成26年度から新たな地域コミュニティについて勉強会や意見交換会を行ってまいりましたが、地区としての合意が得られず設立に至っておりません。

市の地域コミュニティ認定はすべての自治会の参加が条件であり、このままでは進展が望めない状況のため、市の認定と切り離した形で、令和3年7月より自治会と地域4団体で「湘北地区地域コミュニティ連絡会(月1回)」を発足し、地域の情報共有と話し合いの場を設けて地区としての地域コミュニティのあり方に対する意見交換を行っております。また、令和4年度としまして「湘北地区地域コミュニティ協議会」設立を目指した準備会を発足させるべく、意見交換及び自治会に対する勉強会を実施しております。